小学校問題行動等防止プログラムに関する実践事例

高松市立花園小学校

関連項目：検証改善プラン①，教育活動プラン③

全教職員による全児童への教育相談

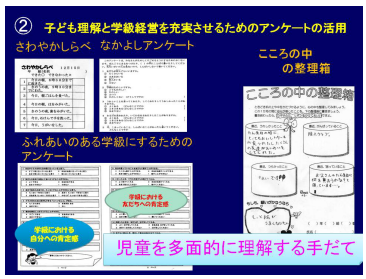
目的

本校の児童は心優しく素直な者が多いが，友だちに自分の考えや思いを伝えるのが上手に出来ず，望ましい人間関係を築くことを難しくしているのではと感じられる場面がある。そこで，全教職員が，学校のあらゆる時間を使って全児童と教育相談をしていくことで，児童一人一人が望ましい人間関係の築き方を学ぶことができるのではないかと考えた。

内容

● 児童の見取りのためのアンケートの活用

児童一人一人を教師の主観だけでなく，客観的にも見取ることが出来るように，本校が以前から活用している各種のアンケートや教育相談用に作成したアンケートを活用した。生活の様子の些細な変化や児童の思いを見取りに付け加えることで，多面的に児童理解をすることができるようになった。



● 「先生と話そう週間」の新設

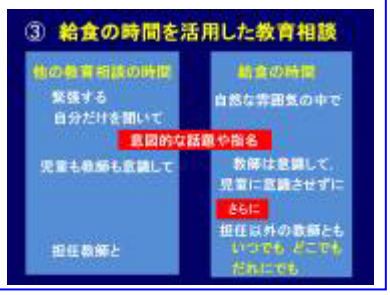
小学校の児童の発達段階に応じた定期的な教育相談を行うために，本校では「先生と話そう週間」を新設した。中学・高校で行われているような個別の教育相談ではなく，学年によっては，教師の机の周りに群がってする相談もありとして，先生と気軽に話す経験を優先させ，取り組んでみた。昼休みはもちろん，１０分休みや清掃時間等も利用したので時間的にゆとりのある教育相談ではなかったが自分の順番を心待ちにしている児童の様子に励まされる実践であった。さらに継続的に年３回，少しずつ内容を変えながら実施した。

● 高学年対象の「定期的（な）教育相談」の実施

小学校でも高学年になると，友達の前では自分の本心が話せなかったり，悩みごとを相談するのを躊躇したりしてしまうようになってくる。そこで高学年には，「先生と話そう週間」に合わせて，低・中学年とは違う形態での「教育相談」を実施した。

● 給食の時間を使った教育相談

給食の時間は，児童にとって，とてもリラックスした時間である。その時間を利用して児童には教育相談とは意識させずに，教師の側は意図や目的を持って話しかけた。給食中に教師が意図的に話題を与えるなどすることで，友だちのその子を見る目がより肯定的になったり，児童同士の人間関係が深まったりする様子が見られたりと，普段の教育相談とは全く違った効果を期待できた。



成果

この取り組みを児童はとても高く評価している。アンケートの結果，高学年で 80%の児童が教育相談をしてよかったと回答している。低・中学年も次回の「先生と話そう週間」を心待ちにしてくれている等の感想が多かった。教師側からもこの取り組みを行ったことで，児童の友だちを見る目が肯定的になってきたことや学級の雰囲気がよくなってきたことが報告された。また，教師が児童を今まで以上に理解しようとする意識改革が図れたことも大きな成果である。